

(地域文化倶楽部創設支援事業)

プレイングラボ ←団体名等

所在地	大阪府大阪市	設立年	2020年
運営主体	プレイングラボ		
事業目標	・「演劇部を作りたいが、専門講師がない、人数が集まらない。」という問題を解決する。 ・「演劇」という、人と関わり合いひとつの目標に向かって協働する作業を通じて、様々な課題を抱える子ども達の第二の居場所となる。		
きっかけ	私たちは、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育の実践的知識を有した講師らで構成する団体である。かねてより、演劇部は指導できる人材が少なく、廃部等が多くみられる部活動のひとつであることを受け、演劇表現を希望する子ども達が広く参加できる機会の充実を望んでいた。 今回、地域文化倶楽部創設支援事業が発足することを知り、学校の垣根を超えた「合同演劇部」を通じて地域の子供達に表現力・共創力・コミュニケーション能力等を育む場を提供し、多様な人と関わり合う機会をつくろうと考え、本事業が立ち上がった。		
団体・組織等の連携			
活動場所	大阪市 オドラボスペース		
活動概要	「演劇教育を通じて“自分らしく生きる為の人間力”を育みたい」と考えた、演劇教育の実践経験を持つ講師らが主体となり活動している。本事業では、学校の垣根を超えた「プレラボ演劇部」での活動と称し部員を募集、計17名の部員と週に1回（公演前の特別カリキュラムを除く）、1年間の部活動に励んだ。 演劇の公演（本番）を創り上げるための過程を経験してもらうことに加え、柔軟な発想と決断力で、前向きに問題突破する力を育成するためのカリキュラムを取り入れ、豊かな心と身体をつくる指導に注力している。		

## ○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。（数値やグラフで示すものがあれば望ましい）

①以下、部員（参加者）に自己省察のアンケートを取った結果、2021年6月→2022年3月で変化がみられた一例である。  
なお、本アンケートは質問に対し「そう思う」を10点、「どちらでもない」を5点、「そう思わない」を0点とし、計算したものである。

- ・【感受性】好奇心を持ち、豊かな感性で物事を感じられる。〈70点→80点（+10点）〉
- ・【表現力】表情や声、体の動きを使って表現できる。〈65点→75点（+10点）〉
- ・【緊張に負けない力】緊張する場面でも、落ち着いて本来の力を発揮できる。〈60点→65点（+5点）〉
- ・【臨機応変力】想定外の事態でも即興的に対応できる。〈35点→80点（+45点）〉
- ・【積極性・自発性】進んで発言したり、自分から行動を起こすことができる。〈55点→60点（+5点）〉
- ・【傾聴力】他者の話を聞き、相手の立場で理解できる。〈60点→75点（+15点）〉
- ・【コミュニケーション力】他者との意思疎通をスムーズにできる。〈60点→75点（+15点）〉
- ・【協調性】集団の中で調和を取り、協力し合うことができる。〈70点→75点（+5点）〉

質問：この演劇部を通して、どうなりたいですか。（できるようになりたい、こんな人になりたい、など）

- ・対応力が上がった、コミュニケーションが取れるようになった。
- ・メンタルが強くなった。切り替えができるようになった。
- ・みんなで協力して演技をしたりダンスをしたりする機会があって、表現がもっと楽しくなった。
- ・友達づくりが苦手だったが、みんなの前で話すことが恥ずかしくなくなり、物事をはっきり言えるようになった。

②事業内では、独自に地域の場所の提供依頼に赴き活動を行ったため、学校・教師に負担をかけず行うことができた。このことから、教員の負担感軽減に寄与できたと感じる。  
加えて、学校内で演劇部がない部員とその保護者らから、ここでなら仲間と有意義な演劇活動ができるとの意見が複数あがり、継続を希望する声が上がリ、成果があったと考えられる。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

- ・部員一人一人に合わせた到達度を設定した。また、異年齢集団での活動が主体であったため、発達の段階に応じて声かけを変える工夫等を行った。
- ・各自の目標へ向かって取り組む態度、仲間と意見が違うときに合意形成する力、協力する意識の向上なども重点に置いた指導を行い、「表現」という、答えのない問題に向かって部員一同協力することを中心においた指導を徹底した。

## ○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか。  
→感染症対策のため、zoomを使用した部活動を積極的に取り入れた。この時、対面での様子を中継しながら相互に会話ができる方式をとり、家庭の意向を踏まえつつ参加ができるよう工夫した。また、ICT機器を使用し、映像の視聴を行なった。
- ・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について  
→メールでのやりとりを中心とし、保護者の相談にできるだけ迅速に対応できるよう団体一同が密に連携をとった。
- ・民間企業とのタイアップ等について  
→活動初期は無観客開催の発表会しか行うことができなかったので、人数制限のもと観客を入れた発表を行う機会を作ろうと、企業への声かけを積極的に行った。その結果、合同会社SAKURA WINGさんのご協力により、高島屋（東別館）で発表の機会をいただき、地域の方や保護者の前で上演する機会を設けることができた。コロナ禍でイベントの延期が相次ぐ中、参加者のモチベーションを向上させることができた。

#### ○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

##### ・活動場所（地域特性上の問題を含む）の課題

大阪市は、緊急事態宣言の発令が度々なされた地域であること、また演劇という発声・接触を伴う活動が多いこともあり、臨機応変な対応が多々求められた。今年度は市と教育委員会双方の方針に従った部活動運営を行ったが、どこの、どんな基準に従えばいいのか、判断に迷うことが多くあった。（スポーツ安全保険には加入必須とした。）今後も学校外での活動の際、こういった保健・安全のガイドラインを準拠にしたら良いかを明確にすることが課題の一つであると感じる。

##### ・指導者、活動経費についての課題

私たちプレイングラボの団体構成員は、全員が専門的指導スキルを有した講師陣のため、子どもたちへの直接的な指導と運営の双方を行なった。しかし、内部構成員では基本的に「諸謝金」の考えは該当しないとのことで、質の高い指導内容を保持しながら運営も行う役割分担の面で負担が生じていた。これは、年間の部活動回数と発表会の回数を一定数以上設定したことも原因の一つである。今後は関係者全員にとって無理のない体制を構築する必要がある。

##### ・全体を通じた反省点として、教育機関との連携をさらに早急かつ綿密に行う必要があったと考える。

今年度に関しては、事業が採択された報告を受けた時点で学校・教育委員会では既に当該年度の枠組みが決まっており、また緊急事態宣言発令の最中であったことも影響して、外部の人間への場所の提供や、教員へ事業開始の周知をいただくことは難しいだろうとの回答をいただいた。そのため、部員の募集や場所の選定も団体で独自に行ったが、それでは習い事のような位置付けが拭えない面もあると感じた。

#### ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

##### ・さらなる活動の周知を、学校、地域、教育委員会、教員、保護者等に働きかける。

そのことを通して、演劇部がない、講師がいない、地域での表現活動を展開したい人が集まらない、等の課題の解決を図る。

##### ・安全な学校外での部活動運営のためにも、各所と連携した保健・安全のガイドラインを明確にする。

・関係者の負担を軽減し、かつ質の高い内容を保持するためにも、自治体の補助金等の活用を積極的に行い、部活動回数・計画の設定を見直す。また、外部の人材への協力依頼を積極的に行う。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行（展開）を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、ホームページ、SNSでの宣伝
指導者	団体構成員による指導者4名 (うち全員、演劇教育関連の資格を有し、専門知識に加え学校教育的知見を有する人材である。)
移動手段	保護者による送迎
活動費用	・施設使用料：週1回レンタル2000円/回（発表会時はこの限りではない） ・指導者謝礼：1050円/時間、 外部スタッフ（音響・照明等）は別途謝礼支払い ・参加者より会費徴収：1,000円/月
スケジュール	●活動内容 4月：募集準備開始 5月：募集開始・体験説明会、シアターゲーム実施 6月：活動本格実施、目標シート記入、シアターゲーム、演技基礎トレーニング、振り返り 7月・8月：小作品制作・発表会①、振り返り 9月：インプロ 10月～1月：外部イベント、参加型演劇創作 2月：発表会②、振り返り 3月：卒業式
保険加入等	公益財団法人 スポーツ安全協会に全員加入

※文化庁ホームページ：地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

([https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/92801101\\_09.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf))

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。（本事業の最大の目的であるため）

### 【活動の様子（写真添付）】

